

激走！津奈木町チーム

津奈木中は9チーム中5位に食い込む！
一般は健闘するも惜しくも3位に・・・



激しいアップダウンが連続する峠道を駆け抜ける「第58回熊日三太郎駅伝大会」は1月13日、水俣市役所をスタート、芦北町の旧田浦町役場をゴールとする40・5キロのコースで行なわれました。



↑混戦が予想された中学校の部。津奈木中は3位入賞を狙える位置にありましたが、懸命なたすきリレーも及ばず5位。しかし各選手の最後まであきらめない姿勢が光りました。

県内の駅伝では最も歴史が古い本大会は、水俣市、葦北郡の1市2町から一般8チーム、高校4チーム、中学9チームの計21チームが参加。一般・高校6区間、中学10区間でたすきをつなぎました。レース結果は、一般の部総合①芦北町②水俣市③津奈木町。中学校の部では、津奈木中学校が9校中5位という成績をおさめました。

課題は若手の育成によるチーム力の底上げ

「若手が育たない以上、まだまだやめられません」。そう話すのは、各チームのエースが揃う花の1区を任された宮嶋弘行選手（50歳）。水俣市や芦北町は若手の台頭によりチーム全体が若返る中、老体（!?）にムチ打ち、各チームの若いエース達と互角に勝負しました。そのほか、本町チームでは松永清さん（53歳）、倉野義彦さん（52歳）、平野新市さん（50歳）の3人が50代のほか、主力は30代後半、40代後半が多数といった布陣。もちろん各選手とも「まだ若いもんには負けん！」という意気込みは十分ですが、チームを率いる新立啓介監督も「ベテラン選手にも、もちろん頑張ってもらわないといけません。5年後・10年後を見据えた若手の発掘・育成にも早期に取り組む必要がありますね」と話していました。

永年の功績による受賞！

倉本健一さん（小津奈木地区）

4区（7.5キロ）に出場の倉本健一さんが、10回目の出場という永年の功績を称えられ功労者賞を受賞されました。

⇒写真左が倉本健一選手（右は平野新市選手）



本町チーム唯一の区間賞！

宮島天聖くん（日添地区）

3区（4.1キロ）に出場した宮島天聖君（2年生）が激走！本町チームで唯一となる区間賞を獲得しました。

⇒写真右が宮島天聖選手（左は倉本純平選手）

